

(2) 話題提供 2 : 新庄中学校 『新庄地震学』 について

谷本 明 (新庄中学校 教諭)

◆本校の防災教育について

1.新庄中学校で現在、防災教育を担当しております谷本です。それでは、防災教育と地域連携ということで発表させていただきます。

3.本校の防災教育は、四つの目標を考えています。まず一つ目が『地域の自然と恵みを学び、これを大切に地域のことを学習する』ことを大切にやっています。二つ目が生徒の発表でもありましたように、『教科と関連付けた防災教育』に取り組んでいます。三つ目がいざというときの実行力を高めということで、『生き抜く力、そのときに行動できるようにする』ことを大切にに取り組んでいます。四つ目が『地域との連携』です。今日のテーマにもなっていますように地域の連携を考えた取り組みを行っています。

1年生では、大きく総合的な学習の時間に地域学習をやりまして、2年生では学年劇をやりまして、3年生で防災の新庄地震学をやっています。これ以外に定期的な避難訓練や、他の学校との交流活動や、田辺市のハザードマップを用いた授業などを行っています。また、田辺市の取り組みで午前中発表がありましたように、3年間の防災学習の指導案をつくっているのので、それを実施・実行していこうと思っています。

4.防災教育は、例えば災害が起こったときの対応など、マイナスの状況に対処する力を学ぶことがメインになると思います。勉強すればするほど、自分たちの町が危険だなというふうに感じてしまいがちになってくると思います。そうならないように、防災学習をやる前に地域の自然とか恵みとか文化とか伝統をしっかりと学習してふるさとの愛着や、誇りというのを高めていくことが大切と考えています。

5.1年生では地域学習をやっています。資料は今年度取り組む地域学習の内容になっています。今年度は七つのグループで取り組んでいます。新庄地域が狭い範囲なのですが、天然記念物が三つありまして、かなり自然にも恵まれた地域になっています。そこでそれをしっかりと1年生のうちに学ぶことをグループ活動でやっています。

6.例えば「奥山の甌穴」と言いまして、天然記念物になって



谷本 明先生

**防災教育の目的**

- ・地域の自然や恵みを学び、時に起こる災害に対して日頃から備えることの大切さを学ぶ。
- ・教科と関連づけて地震や津波についての正しい知識を学習する。
- ・いざという時の実行力を高め、生き抜く力を育む。
- ・防災学習を通して地域との連携を深める。

1年生 地域学習

2年生 学年劇

3年生 新庄地震学

- ・定期的な避難訓練
- ・他の学校との交流活動
- ・田辺市のハザードマップを活用した授業
- ・全校学期に1回、3年間の計画的な防災授業

**防災教育とは・・・**

**危険回避行動・非常時の対応**

→負の状況への対処

→自分たちの住む町が**危険**

↓

**地域の自然の恵み、文化や伝統を学習して、ふるさとへの愛着や誇りを高めていくことが大切**

平成27年度1年生 地域学習

1	天然記念物「奥山の甌穴」
2	天然記念物「鳥の巢泥岩岩脈」
3	天然記念物「神島」と南方熊楠
4	大湯神社と祇園さん
5	新庄の漁業
6	新庄杜氏唄
7	新庄地質学



います。山の中の小さな川があるんですが、そこに大きな穴があいています。その穴は何万年かかけても小石がグルグル回ることによってできたものだそうです。僕自身も知らなくて、調べて初めて知ったような状況だったんですけど、こういったものも、生徒と一緒に公民館の方に協力してもらいながら、夏休みの間に実際に現地に行って調べて、それを発表しています。

7.資料の写真は地域にある大湊神社です。そこに行き、神主に話を聞いたり、7月には「祇園さん」というお祭りが行われているんですが、そのルーツを調べたり、実際にお祭りに参加したりしています。

8.今年度新しく始めた取り組みです。南紀熊野が日本ジオパークに認定されたので、地質学を勉強してみようということで、地域の方に来てもらって地質学を勉強しています。資料の右下の写真は学校のテニスコートの横です。その石を見るのですが、ジオパークガイドさんに、「この石は和歌山市の上の方の貴志川の方から流れ着いた石だよ」と教えてもらったり、海岸に行ったら「ここにはエビが住んでいた化石があるんだよ」と生痕化石なども教えてもらいました。私自身理科の教師ですが、知らないことがたくさんあり、すごく楽しく勉強させてもらっています。

9.大湊神社にのぼるまで階段です。その階段の下部分と上の部分に石碑が建っています。この石碑は、階段の下の方が「安政の津波の碑」、階段の上の方は「宝永の津波の碑」で、地震のときの津波がここまで来た痕跡を示しています。実際、石碑の裏を見ても、ここまで波が来ましたという線が引いてあります。このように地域学習が防災につながって勉強できています。この神社は高いところにあるので、階段の上の方までのぼってみると地域の家がよく見えます。屋根よりも高い場所にありますので、実際は津波がここまで来たことが実感できます。

10.学校の裏にも石碑があります。写真は地質学の学習のときに撮影したのですが、石碑を見ても「宝永の津波の潮位 12m 79cm」と記されています。この場所は山になっている坂道なのですが、宝永の地震があったときに、両側から津波が来て真ん中で津波同士がぶつかり合って大きな音がしたということで「どんの坂」と呼ばれているそうです。地質学を勉強するときにこういったことを勉強したりしています。



11.学校の裏にお寺があり、そこには写真のような碑が建っています。この石碑は、下に昭和南海地震で被害に遭った方の名前があり、その慰霊碑です。登校時にお寺を抜けてくるルートを通る生徒もたくさんいます。普段は何気なく通っているのですが、気づいていないことが多いです。このように地質学を勉強しながら防災のことも勉強しています。1年生では地域のことをしっかり勉強しまして、2年生では学年劇に取り組んでいます。

12.平成25年度は「稲むらの火」といって、和歌山県の濱口梧陵さんの物語を取り組みました。去年は串本の「エルトゥール号」に取り組み、ここ何年かはその地域を題材にした物語をやっています。

13.一昨年の「稲むらの火」の劇をやったときに NHK 和歌山にて放送していただきました。

14.今年度ですが、新庄の物語を何か作れないかということで、いま実際に制作中です。2年生が6月に神戸の「人と防災未来センター」へ行き、いろいろなことを調べてきて、それをもとに新庄の物語を制作中です。脚本を書いたり、今から動き始めようとしています。

15.また、地震学発表会の午前中が文化祭になっており、午前中に演劇を予定しています。3年生では防災学習を行うというこういう大きな流れでやっています。

16.防災教育というのは、ふるさと学習の一環だと捉えてやっています。地域には自然や恵みもたくさんある。ときには災害も起こるといって怖がるのではなくて、備えることが大切だというふうに考えて防災教育に取り組んでいます。

#### ◆ 防災教育を継続するために

18.一つ目ですが、『毎週1時間カリキュラムに組み込まれている』ことです。3年生になりますと、週1時間の総合的な学習で地震学をやると決めています。初めてきた先生でもやらざるを得ない、やるように組み込まれています。

19.二つ目ですが、『学年をこえた運営組織』です。新庄中学校では、5年前に国の研究指定を受け、公民館と地域と学校が連携した共育コミュニティを組織し、その中に、“学び合いの里”“ふれ合いの里”“防災の里”の三つの部会をつくりました。そして、各学年の先生がそれぞれの部会に一人ずつ所属しています。防災担当も私一人ではなく、各



防災教育  
→ ふるさと学習の一環

- ・自然や恵みが多い
- ・時には災害も起こる

怖がるのではなく、備えること(=防災教育)が大切

① 毎週1時間カリキュラムに組み込まれている  
(3年生の総合的な学習の時間)

② 学年をこえた運営組織

中学校と公民館が連携して子どもを育てる取り組み「新庄地域共育コミュニティ」

3つの里づくり

学び合いの里  
ふれ合いの里  
防災の里

研究部会  
各学年から1名、それぞれの部会に所属

学年に一人ずつ防災担当者をおり、部会を開いて取り組みを進めています。このようにすることで、誰かが転任しても続いていく体制をとっています。

20.三つ目は、『教科と関連した防災学習』です。生徒の発表にもありましたように、9教科と関連付けた防災学習を行っています。

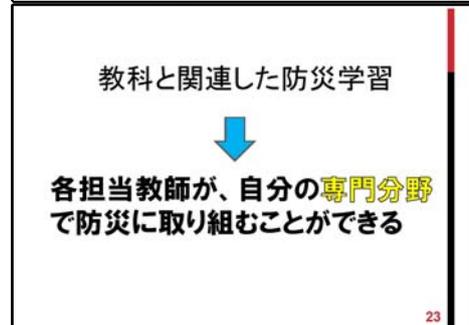
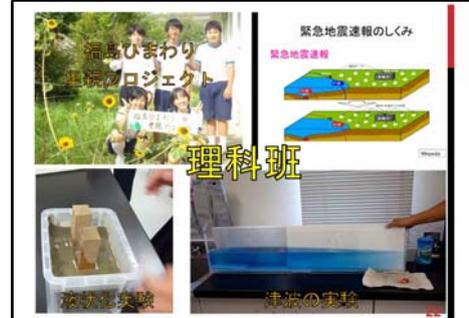
21.例えば英語班ですと、英語の防災カルタをつくったり、英語の劇をつくったりしています。右下の写真は去年の取り組みで、青いこいのぼりプロジェクトというものです。後付け感もありますが、震災で家族を亡くした大学生が始めたこいのぼりを募集しているという取り組みがありまして、ぜひそれに参加しようということでした。英語と防災の組み合わせはなかなか難しい部分もあります。そこで「英語で鱗にメッセージを書いて、そしてそれを自分たちでつくって送ったらどうか」、さらに「それを小学生に教えたらどうか」といろいろアイデアをだし、『小学校に出前授業に行って、英語を教えながらメッセージを書いて、こいのぼりをつくる』という取り組みを考えました。これも英語の先生が担当していましたので、実際には自分の専門分野で取り組んだこととなります。

22.理科班の取り組みです。私は理科の教師ということで、ひまわりの栽培や、緊急地震速報の仕組み、中学1年生で地震のことを勉強しますので、P波とかS波とか、そういったことも勉強して、それが緊急地震速報につながっているんだよという話もします。また、写真の左下は液状化の実験です。津波の実験や、理科の実験をして、理科と防災を絡めたことをやっています。

23.教科と関連した防災学習をすることによって、各担当の教師が自分の専門分野で防災に取り組むことができることも、継続のための一つの要因だと思います。

24.四つ目が『楽しんで取り組める防災学習』です。防災を楽しいというと、ちょっと違和感がある方もいらっしゃるかもしれませんが、私が前任の防災担当から引き継ぎのときに強く言われたことで、「防災も何か取り組みを楽しんでやらないと続かない」ということを強く言われました。

25.例えば凧をつくったり、横断幕をつくったり、かまどベンチや防災マップなど、“何かものづくりをする”ことは楽しみながら生徒は取り組みます。



26.カルタや紙芝居、キャラクター作成、歌とダンスといった創作物、“何か考えながらつくる”ということも生徒は楽しみながらやっています。

27.炊き出しや空き缶で炊飯、ソーラークッキングなど、“食べる”ということも生徒は楽しんで喜んでやります。避難所体験ということもやっています。夏休みの間に1泊、体育館に寝泊まりします。もちろん避難所体験なので、楽しんでやるということはおかしいかもしれませんが、学校で寝るといことは、生徒はちょっと楽しみにしてしまいます。こういった取り組みをやってきました。

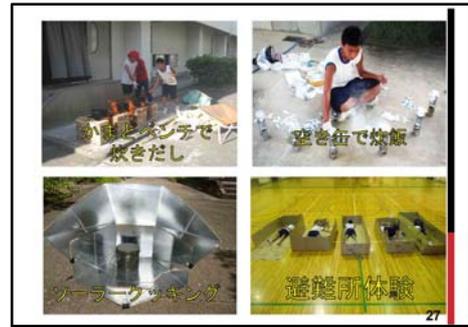
28.防災というのは、怖い、悲しいとかいうイメージが強いですが、ものをつくる楽しさや共同作業する楽しさ、人に何かを伝える楽しさという取り組みをすることによって、生徒たちが自発的に行動していきます。地震学はテーマを決めますが、決まったら生徒主体でどンドン動いていきます。こういうことも生徒自身が考えながら、何か楽しみながら作業するという要素があるんじゃないかなと思っています。

29.五つ目が『誰かの役に立っていると感じる防災教育』です。

30.幼稚園や小学校に出前授業に行っています。何か教えるということは、中学生が授業を自分が受けるのではなく、自分が何かを教えるというときに、その作業を通してすごく変わり、成長することが多いです。小学校に行くと、ほぼ生徒主体でやってもらうのですが、学校では見られない表情や、あまり喋らない子が小学生の前に行ったら一生懸命がんばってやっている姿が見えたりします。幼稚園では、一生懸命ハサミをつかって何かを切ってあげたりとか、そういった作業を見ていると、何か教えられただけじゃなく、自分が教えるという体験を通して、自分が役に立っているんじゃないかなと感じているのではないかなと思います。

31.地域の方に安否札を配布したり、防災頭巾をつくってプレゼントしたり、募金活動など、誰かの役に立っているというような活動を行っています。

32.こういった活動を通して、誰かの役に立っているということが、自分が必要とされているということにつながって、それが自尊感情や自己肯定感の向上など「自分自身の何か役に立っているな」という感情につながっているように思います。



防災→怖い、悲しい

- ・ものを作る楽しさ
- ・共同作業する楽しさ
- ・人に伝える楽しさ



生徒の**自発的な行動**

28



- ・小学生と交流
- ・地域への貢献や募金活動



誰かの役に立っている  
自分が必要とされている



**自尊感情・自己肯定感の向上**

32

33.六つ目は『地域と連携した防災学習』です。今日のテーマにもなっていると思います。地域の方にもたくさん助けられています。

34.過去の災害の伝承ということで、地域の方をお招きして、過去の災害を聞いたり、DVDを制作して後世に伝えていくということも行いました。かまどベンチで毎年炊きだしも行ってもらっています。

35.地震学発表会の日に、地域の方と合同避難訓練を実施しています。地域の方に呼びかけて中学校に避難してきてもらいます。今年は、昨年度いろいろな賞をもらったので、公民館で報告会を開きました。

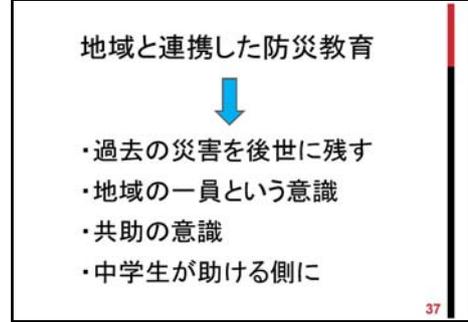
36.地域の方を招いて、防災の講演会も行ったりしました。防潮林の植樹も地域の方と協力して行いました。

37.こういった地域と連携した防災教育を行うことで、過去の災害を後世に残すということはもちろん大事だと思いますが、それ以外に地域の一員という意識、生徒自身、自分が地域の一員であるという意識が高くなったり、共助の意識、まとまり助け合う意識、中学生が助ける側という意識が育ちました。先日、新聞の取材があったのですが、その取材の中で、「助けるとき何が大事ですか」という質問に、普段はそんなこと言わなそうな生徒が「地域の人に声をかけてそこから逃げていくことが大事」ということを言っていました。取り組みを続けてきた成果を感じました。

38.七つ目は『自分たちの取組を発信、交流する場をつくる』ことです。いろいろな交流の場をつくっています。

39. 2年前、田辺市津波防災シンポジウムが開かれまして、そこで発表する機会をいただきました。

40.資料の写真はシンサイミライ学校交流会の様子です。宮城県の石巻西高校が主催で、2泊3日で活動しました。私も初めて東北に行っただけですけど、高校生がたくさんいて、その中にいらしてもらいました。石巻西高校は、実際に避難所になった学校です。この取り組み自体も避難所と同じ生活をしてもらうことでスタートしました。生徒たちは行った初日にお昼ごはんを配ってもらったのですが、食べるのを待っていました。そしたら、当時の校長先生が「お前ら何してるんだ」「避難所で待っている時間なんてないぞ」と普段の生活との違いや現実を教えてもらいました。そういったことを通して生徒たちが変わってきます。その2泊3日は、ほとんど教師はノータッチで、自分たちだけ



で行動するんですが、高校生の姿を見たりして、一日目と三日目では全然生徒の行動が違ってきていました。

41.全国防災会議にも参加させていただきました。これも全国からたくさん中学生や高校生が集まったんですけど、その中でいろいろな取り組みがあり、各グループに分かれてグループから自分のところへ帰ったら必ずこれだけはやろうというアクションプランの文書をつくるという作業がメインでした。

42.実際にそれを生徒たちだけでつくっていきます。最終日の会議ではまとめる作業にもいれてもらい、深夜の1時くらいまで会議をしてつくりあげました。こういう活動を通して、すごくしんどかったとは言っていますが、帰ってきてから、「もう一度やりたい」「こういう活動もっと他になにか」ということも言っていて、成長してくれていると感じました。

43.後日、文科省へ提出に行って来ました。

44.兵庫県の舞子高校に呼んでもらい、パネルディスカッションとか発表をさせてもらいました。

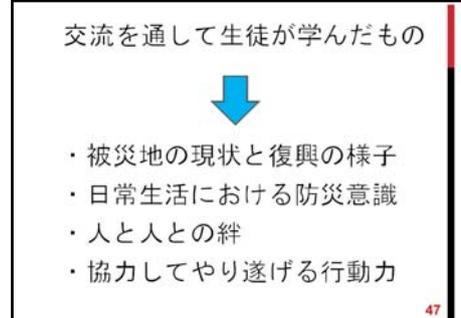
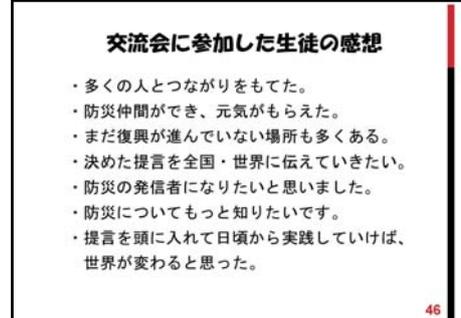
45.12月には淡路島でジュニアリーダー育成合宿というものが、3年生が参加させてもらいました。

46.交流会に参加した生徒の感想です。多くの人とつながりがもてた、元気がもたらえた、まだ復興が進んでない場所もあるなど被災地のことがわかったり、提言を全国・世界に伝えていきたい、発信者になりたい、防災をもっと知りたい、世界が変わるといような感想を書いています。

47.交流会に参加した生徒だけではなく、参加してからその後学校へ帰ってきて、全校集会を開いて学校でその都度発表しています。それで、参加していない生徒を含め、後輩たちもそういう意識が芽生えてきていると思います。交流を通して生徒が学んだものとして、被災地の現状や復興の様子、日常生活における防災の意識、人と人との絆とか、協力してやり遂げる行動力など多くのことを学んでいます。

48.八つ目は『他者から評価される機会を得る』ことです。自分たちの活動を他の人から評価してもらい機会をもつことも、生徒たちが次の段階につながっていくと思います。

49.去年はぼうさい甲子園で、グランプリをもらいました。そこでまた神戸に行きいろんな学校と交流する場面をいただきました。



50.また、レジリエンス・アワードでもグランプリをいただきました。仙台へ急遽行くことになったんですが、そこでもたくさんの方に声をかけてもらいました。サッカーのなでしこジャパンの佐々木監督に声をかけてもらったりしてとても貴重な体験をさせてもらいました。

51.これ以外にいろんな新聞にとりあげてもらったり、ラジオに出させてもらったり、テレビに出させてもらったりしました。こういったことも、ラジオをお昼休みに流したり、新聞を大きく掲示したりすることによって、他の生徒たちや下級生も意識があがってくる効果もでてきています。来年度から公民の教科書にも載せてもらうということが、決まったそうです。

52.他の方から評価してもらったということでは、昨年度は「新聞を見た」というお便りを何通かいただきました。例えば、新聞に載っていたということで東京とつくば市にいる卒業生の方からいただきました。第4期というかなり高齢の方からお手紙をいただき、「東京に住んでいて新庄という文字を見てビックリした」ということでした。お二人とも昭和南海を経験されたという方で、「当時の昭和南海地震のことをすごく鮮明に思い出しました」というお手紙をいただきました。「遠く離れて帰っていないけれど、そういう記事を見つけてすごく感激しました」というお手紙でした。こういったお手紙も生徒に紹介して、「こんなお手紙が届いたよ」「きみたちの活動がいろんなところに広がっているよ」という話もしています。

53.いろんな人から評価していただくことで、自分たちの活動の振り返りになっているのではないかと思います。それが達成感や自己肯定感の向上につながっているのではないかと思います。そして下級生の意識の向上や、「先輩たちがあんなに頑張っているのだから、自分たちももっと頑張ろう」「受け継いでいこう」という気持ちになっていっていると思います。

54.防災教育を継続していくために、こういうことが大事なのではないかと自分なりにまとめてみました。



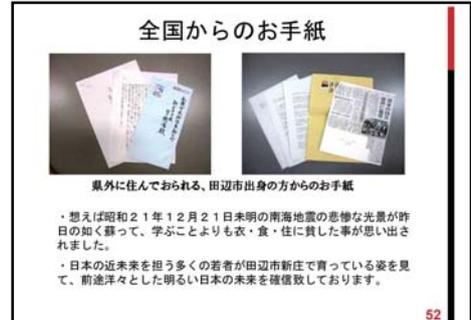
宮城県仙台市 平成27年5月14～15日

50



公民の教科書

51



県外に住んでおられる、田辺市出身の方からのお手紙

- ・ 想えば昭和21年12月21日未明の南海地震の悲惨な光景が昨日の如く蘇って、学ぶことよりも衣・食・住に費した事が思い出されました。
- ・ 日本の近未来を担う多くの若者が田辺市新庄で育っている姿を見て、前途洋々とした明るい日本の未来を確信致しております。

52

他者から評価をしてもらうことで

- ・ 自分たちの活動の振り返り
- ・ 達成感、自己肯定感の向上
- ・ 下級生の意識向上、次年度への動機付け

53

防災教育を継続していくために

- ・ カリキュラムに防災教育
- ・ 組織づくり（複数の防災担当）
- ・ 生徒が楽しめる内容
- ・ 地域との連携（協力を求める）
- ・ 生徒が発信・交流できる場をつくる
- ・ 活動を他者に評価される機会

54

## ◆防災教育のめざしていくところ

56.防災教育というのは、“行動スキルを高める”という実際に津波が来たときにどう逃げるなどのスキル・技術を高める部分と、意識を高める部分の大きく二つに分かれると思います。どちらかといえば、新庄地震学は、防災の意識を高める部分が多いと思います。小学生に教えたり、凧をつくったりなど、防災を頑張っていこうという取り組みがメインになってきます。実際に地震が来たら、津波が来たら、本当に逃げ切れるのかという心配もあります。今後実践的な行動スキルを高めるような防災教育ももっとやっていかないといけないと考えています。

57.その一つがハザードマップを使った授業です。田辺市では、クリックするだけである場所から最寄りの避難場所までの避難経路がサッとでてくるシステムがインターネット上で公開されています。これを使って「田辺市内のどこかに遊びに行ったときに地震が起きたら」という想定で授業をしてみました。学校以外の場所へ行ったらどこへ避難するかを確認し、登下校中の避難訓練を行いました。その際、新庄中学校は避難場所になっているのですが、あえて中学校以外の場所で考えてさせました。また自宅が高台にある場合は、自宅が倒壊してしまった場合として、別の避難場所を考えさせました。新庄地域の中には避難場所はたくさんあるのですが、教員も全部まわったことはもちろんなく、ほとんど知らず、実際にこういう活動をしてみて、初めてその避難場所へ行き方がわかったこともたくさんありました。

58.今後、おこなっていききたいことですが、これまでの活動の継続は大事だと思います。また今言ったように、スキルを高める教育、田辺市でつくっている防災授業案もおこなっていききたいです。それから、教職員の災害時の行動の確認も、教職員の申し合わせがまだ足りていないと思うので、やっていきたいと思います。“命と向き合う防災学習”と書きましたが、これについては先ほどの石巻西高校の校長先生からお言葉をいただきました。「新庄中学校は確かに防災教育をやっているけれど、実際にそこまで踏み込んでやっているのか、次の段階として命と向き合う防災学習が必要だな」と言われました。確かに防災は大事だと言っていますが、生徒たちも実際どこまでわかっているか、自分のこととして、どれだけ考えているかというのがまだまだ

### 防災教育

<p style="text-align: center;"><b>行動スキルを 高める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・的確な判断力</li> <li>・災害についての知識</li> <li>・行動技術や運動能力</li> <li>・訓練での経験</li> <li>・相互救助</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>防災意識を 高める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険の認知</li> <li>・人と人のつながり</li> <li>・コミュニケーション力</li> <li>・他者へのいたわり</li> </ul>
--	---

自己啓発の高揚とスキルの上向  
学校における防災教育は集団での学習で身につける。

56

「田辺市ハザードマップWEB版」を用いた避難訓練シミュレーション授業



登下校中の避難訓練（学校以外に避難）



57

### 今後おこなっていききたいこと

- ・これまでの活動の継続
- ・行動スキルを高める防災学習
- ・3年間での、生徒の意識の変化
- ・教職員の災害時の行動の確認
- ・命と向き合う防災学習

58

### 新庄地震学の感想

- ・避難場所や地震が起きたときどうするかなどを家族で話そうと思いました。
- ・完成したときの達成感や協力し合うことの大切さを学ぶことが出来ました。
- ・カレンダーを通してつながりの輪がどんどん広がることを願っています。
- ・防災への感心が高まり、地域の人々とのつながりを深めることができました。
- ・お互いに得意な分野で助け合えば何かできることがあること、お金をかけなくても工夫すれば、すばらしいものが出来ると思いました。

59

### 防災教育を通して…

災害時の力だけでなく

- ・正しく判断する力
- ・主体的に行動する力
- ・コミュニケーションをとり協力する力

などたくさん力を身につけることができる

60

足りていないと思います。そこが一番大事だと思いますので、そこをもうちょっとやっていきたいな  
と思っています。

59.新庄地震学の生徒の感想です。「家族と話そうと思いました」「達成感や協力し合うことの大切さを学  
びました」「つながりの輪が広がることを感じた」「助け合えば何とかなる」などそういった感想を書  
いてくれています。

60.防災教育を通して、災害時に生き抜くということは大事だと思いますが、それ以外の普段の生活にお  
いて、“正しく判断する力”や“主体的に行動する力”、“コミュニケーションをとり協力する力”も  
ついてきているんじゃないかと感じています。

61.新庄地震学は今年で15年になります。最初に学習した生徒が中学校3年生で15歳でしたので、今  
年で30歳になります。どんどん成長して、やがて子どもが産まれている生徒もいると思います。続  
けていくことによって、どんどん地域自体が防災に強い町になっていっていると思います。新庄をも  
し離れても、これからも続けていくことで、やがて全員が防災学習を学んだ町になってくれたらいい  
なという思いで、これからも続けていきたいと思っています。